

7

本当に治療が必要でしょうか？

A 治療が必要かどうか、まずは一度「肝臓専門医」に相談してみましよう。病気が進行したり、からだの負担が大きくなる前に治療を受けましよう。

● 未治療で終わらないように

最新の疫学データでは、2015年時点のHBVとHCVを合わせた感染者数は、200.1～248.8万人(HCV:89.1～130.2万人、HBV:111.0～118.6万人)と推定され、HBVでは抗ウイルス療法なしの患者が15.8万人、抗ウイルス療法ありの患者が17.0万人、潜在キャリアが45.2万人、未受診キャリアが33.0～40.5万人でした。一方、HCVでは抗ウイルス療法なしの患者が18.1万人、抗ウイルス療法ありの患者が47.2万人、潜在キャリアが22.5万人、未受診キャリアが1.3～42.4万人でした。(日本肝臓学会 肝がん白書 令和4年度より)。「忙しいから」、「体調に問題がなく、特に治療が必要と感じないから」など、さまざまな理由で検査や治療への一歩を踏み出さない方、知識不足から「治療が必要な重大な病気」という認識が薄い方もいるようです。

症状がでにくい肝臓は、放置することで、気づかぬうちに病気がどんどん進行してしまいます。進行することで治療が長引き日常生活や仕事にも支障が生じ、身体的にも経済的にもどんどん負担が大きくなっていきます。そうなる前に、まずは相談してみましよう。肝臓病に特化した「肝臓専門医」のいる病院に相談するのがよいでしょう。肝疾患相談・支援センターに問い合わせるのもひとつの方法です。

肝炎について(治療)

肝臓は自覚症状がないまま病気が進行し、肝硬変、肝がんの段階でさえ、症状がないこともあります



● 治療から遠ざかっているあなたへ

10年、20年と長期に渡って肝炎と向き合ってきた方、「10年以上前に治療を受けたが、思うように効果が出なかった」「副作用がつらくて治療を続けられなかった」と、途中で治療を諦めてしまった方もいることでしょう。

医療は日進月歩。現在の治療は、従来からある注射薬は使わずに、効果が高く副作用も少ない飲み薬だけの治療になっています。ぜひこの機会に医療機関を受診してみませんか？

● あなたの「知りたいこと」が、ここにあります

病気に関する正しい知識を得ることは大切です。信頼できる情報や医療費助成制度、治療について詳しく知りたいと思ったときには、各都道府県にある肝疾患診療連携拠点病院内の「肝疾患相談・支援センター」を利用してみましょう。その病院を受診していなくても無料・匿名で相談できます。肝臓病教室など、定期的に勉強会を開催している病院もありますから、病気の理解を深めるために参加してみるのもよいですね。